中建日報　2011年(平成23年)9月1日(木曜日)付　2面

日本技術士会中国本部「総合防災訓練」に展示ブース

防災の備え呼びかける

公益社団法人日本技術士会中国本部（近藤英樹本部長）は、25日に呉市阿賀マリノポリス地区周辺で開催された「平成23年度総合防災訓練」において展示ブースを構え、防災の重要性などを呼びかけた。

訓練は、広島県防災会議と呉市防災会議が主催したもの。目的は、地震・台風等の大規模な災害の発生を想定し、防災関係機関はもとより、県民・企業・行政が一体となって各種訓練を実施することにより、防災関係機関相互の災害時における緊密な連絡協力体制を確立するとともに、地域住民の防災意識の高揚を図ることにある。

訓練では、東日本大震災をふまえ、西日本で東南海・南海地震が起きた場合に、呉市で震度5強の地震が発生し、2mの津波が押し寄せ、死傷者が多数発生したことを想定。消防や警察など80機関約1600人参加のもとで行われた。

日本技術士会中国本部は、社会貢献活動の一環で平成15年に防災委員会を立ち上げ、災害被害の軽減を目的とした技術的支援活動などに取り組んでおり、今回の防災訓練では展示ブースを設置して、日頃の活動状況を広く市民や関係機関に教宣し、交流を深めた。展示ブースでは、日本技術士会が作成した防災パンフレット・防災カード・防災Q&A等の配布、日本技術士会の活動パネルの展示、防災よろず相談の受付を実施。中でも防災カードは、日本航空が全社員に配布するなど好評を得ており、会場でもたくさんの人々に配布し、防災への備えを呼びかけた。

展示ブースでは防災相談も